



開田小学校だより



令和4年12月2日（金） 文責：北原 健吉



11月1日（火） なかよし月間はじめの会と校長講話

11月1日からなかよし月間（人権教育月間）がスタートしました。校長先生からは、「なかよしの良さを感じよう。」「友だちの気持ちを考えよう。」というお話がありました。縦割り班で協力して、ゲームをしました。相手の気持ちを想像しながら、ペアで描いていく絵は、みんなの笑顔を誘います。なかよしのよさを感じられたでしょうか。



もりだくさんのなかよし月間企画！！

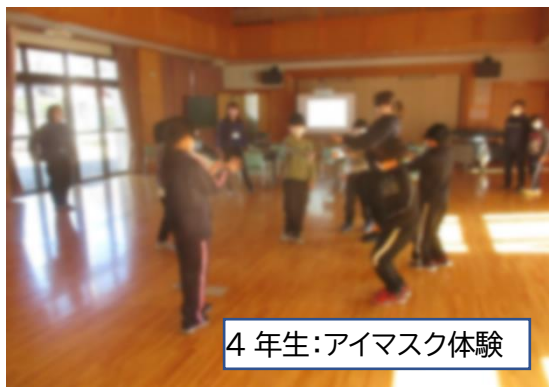


11/10(木)なかよし班で「全校でいもほり」 11/24(木)なかよし班で食べました。今年は教室で黙食。これを、「with コロナ」というのでしょうか。地域の皆さんも見に来てくださいました！



11/24(木)の午後のなかよし集会では、5年生企画のビンゴゲームをしました。全校音楽で「スマイルアゲイン」を歌ったり、ボール回しゲームをしたり…。異年齢の集団で「なかよし」の良さを体感します。高学年の子どもが、ファシリテーター（伴走者）になって、低学年の子どもをリードできるようになることを願っています。

11月18日（金）人権参観日とポッチャ体験



4年生:アイマスク体験



ポッチャ体験

18日（金）に人権参観日とポッチャ体験が行われました。人権参観日では、各クラスで自分に自信をもつことや、相手を思いやることなどを、題材とした授業を見ていただきました。参観日の後、いくつかの学級は、学習で作成した「イモリグッズ」や「お米」「ポップリ」などを販売しました。地域の方、保護者の方のご協力のおかげで大盛況でした。

また、今年はPTA講演会として「ポッチャ体験」を行いました。サンスポーツの矢崎さんらを講師にお迎えし、長野県社協、木曾町社協、木曾町生涯学習課の協力をいただき、保護者・地域の皆さんにも参加していただくことができました。ポッチャは年齢や障がいの有無にかかわらず、みんなが楽しめるスポーツとして開発されたもので、大人も子どもたちも本気で戦いました。勝っても負けてもみんなにこやか。ポッチャを通じて子どもたちは、地域の方と関わる良さを感じられたのではと思います。

今後も地域の皆さんが子どもたちと関わっていただき、一緒に楽しめる機会を作っていきたいと思いますので、今後ともご協力の程よろしく申し上げます。

11月21日（月） 大畑健二先生をお招きして授業研究

11月21日（月）に信州大学大学院の大畑先生をお招きして、授業研究会を行いました。6年の総合的な学習では、卒業までに開田のためにできることを考える授業です。社会科の学習では、小林先生の研究分野でもある満蒙開拓団について学習しました。小林先生は、「人の思いを受け止められる社会科」の授業を目指しています。子どもたちは、満蒙開拓団の語り部の方々の資料を読み、何を感じ、何を考えたか、授業は続きます。



6年 社会科の授業

12月1日（木） 馬頭琴コンサート



12月1日（木）に馬頭琴のコンサートを行いました。馬頭琴とホーミーの演奏をしながら全国を回っている岡林立哉さんの演奏を、地域の方にも聞いていただきました。開田高原CS事業とし、費用については、地域の方にご協力いただいている資源物回収の収益から支出させていただきました。モンゴルの広い草原と風が思い浮かぶような、素晴らしい演奏に聞き入りました。ほんの一時、穏やかな時間を子ども達と過ごすことができました。

ABN ふるさと CM 大賞

4年生の開田 CM が予選を勝ち抜き本選大会出場

『abnのふるさとCM大賞』に4年生が開田科（総合的な学習の時間）で制作した「みんな おいでよ 開田高原」が多数の応募作品の中から、みごと本選に残り、11月27日（日）長野市若里市民文化ホールで最終選考会が行われました。その様子は1月3日（火）午後4時にテレビで放映されます。結果は…お楽しみに！

11月30日（水）に、全校でCMを見て、4年生に賞状を渡しました。テレビでも10回放映されるそうですが、このCMをいろいろな人に見てもらいたいものです。インターネットのabnのホームページから簡単にご視聴いただけます。「おいでよ 開田高原」です。



↑力作にびっくりです。1月3日(火)のabnをご覧ください。本選出場作品は、ホームページでもご覧いただけます。

←「たくさんの自然とかわいい木曾馬が待っています」かわいいナレーションと美しい映像のCMです。

【保護者の皆様・地域の皆様へご連絡】

前回の学級懇談会でご質問が寄せられているので、学校としての考えをお伝えいたします。

(1)新型コロナウイルス感染症への対応について

㊦本人や同居する家族が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、出席停止となります。学校への登校はできません。

㊧本人が風邪症状等の体調不良の場合、無理をせず欠席していただけたらと考えます。

㊨ご家族が風邪症状等の体調不良の場合、無理をせず欠席していただけたらと考えます。

㊧と㊨の場合も出席停止扱いにはなりますが、ご家庭の判断により登校させることは可能です。学校として登校を禁止することができるのは、感染症に罹患している、または罹患の恐れがある場合に限定されています。迷う場合は、どうぞ学校にご相談ください。

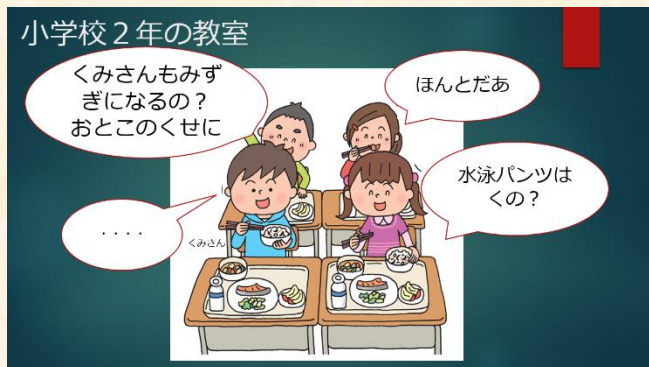
(2)タブレットの持ち帰り、授業配信について

・学級閉鎖時や、出席停止等が続く場合、希望するご家庭にはできる限り授業配信を行っていきたくと考えています。

・5月当初に提出していただいておりますが、タブレットの家庭での使用については、保護者の方にも使用方法について見守りをお願いします。タブレットの決まりとして、勉強と関係ないことに使わないという約束がありますのでご承知おきください。タブレットは簡単にゲームもできますし、動画も見ることができます。依存状態になることも多々あります。使用については家庭と学校との連携が必要です。お子さんの使用の様子をぜひご覧いただき、ご心配なことがあったら早めにご相談ください。

・宿題等でのタブレットを利用する学年（学校の授業でどの程度使えるようになっているか）や発達段階に応じて考えますのでご理解ください。今は、「使えるところから使っていこう」という段階です。授業や家庭学習に「効果的に使う」ことを目指し、ICT教育の教育課程も徐々に整備してまいります。

(3)保護者学校評価アンケート回答がまだの方は早急をお願いします。スマホでの入力、紙の提出でも結構です。



なかよし月間（人権教育月間）での校長講話では、自分の小学生時代の話をした。男の子のようで、がさつで、殴ったり蹴ったりのケンカをする私が「久美さん（私のこと）は、男のくせに女の水着を着るのか?!」という言葉でクラス中が大笑いになった。それがきっかけで水泳の授業がはじまる日に、学校から黙っていなくなった・・・という事件の話。今、こうして話せばどうということはないが、当時の私はその言葉と大笑いにいたく傷つき、学校から突然いなくなるほど悩んだのだ。（ちなみに、他にも私を悩ませるたくさんの事柄があった。）

学校での「言葉」に関しては、数えきれないほどの思い出がある。自分の子どもの頃はもちろん、教師になってからも。

中学校で担任をしていた頃。私の学級の由紀さんの小学校時代の担任 A 先生は、古い知り合いであった。「A 先生ってどんな先生だった？」と聞くと、「A 先生に言われた一言のせいで、卒業まで A 先生と話ができなかった」と言う。聞けば、由紀さんは友だちから別の友だちの悪口を投げかけられた。「そうだね。私も嫌い。」とかなんとか言ったところを担任の A 先生にたまたま聞かれた。「由紀さんってそんなふうに友だちのことを悪く言うんだね。先生がっかり。」そういわれたのだそう。「A 先生のごことは好きだったし、いい先生だと今も思うけど・・・。」とも言う。A 先生はたぶん「がっかり」のたった一言で、由紀さんからの信頼を失ってしまった。

香織さんは小さい頃、お風呂でやけどをし、その傷跡を隠すために水泳は、長袖長ズボンの水着（今でいうラッシュガード）だった。今でこそ、よくある水着だが、その時代はそんなもの売っていなかったし、誰も着ていなかった。だから、香織さんのお母さんは、毎年プールが始まる時には心配し、気を病む。年頃になるにつれ、娘は水泳を休みたがるようになったからだ。やけどをさせてしまったという負い目もあるのだろう。中学に入ってからプールがはじまってしばらくした後、お母さんが担任である私に電話をかけてきた。「水泳の時間に、いつもの水着を着たら、〇〇ちゃんが『かおりさんの水着かっこいいね。』と言い、それ以来、プールを泳ぐことはなくなった」という電話だった。

小学校時代の私に、「いつも男の子と殴り合いのケンカをしているくせに、『女の水着を着るのか?』と言われたことくらいで傷つくのはおかしい」という理論は通じない。当の自分もいつもなら言い返すのに、なぜそんな一言に傷つくのか今もわからない。先生に誤解されて悲しんでいる由紀さんに「先生の誤解が解けるようにちゃんと説明しなさい。」と親が言ってもできないだろう（多分、由紀さんは親に相談していない）。あの時、香織さんの担任であった私は、香織さんの水着のことを実は心配していた。でも、香織さんにも学級の子どもたちにも何も言えずにいた。ましてや、「香織さんの水着を見たら、『かっこいい』と言ってあげよう」なんて、とても言えない。

学校という場所で、今もたくさんの子どもがいろいろな言葉に傷つき、そして、いろんな言葉に救われていることだろう。教育とは、教師の仕事とは、かくも難しく、そして責任が重い。

（「教育」は「子育て」「教師」は「親」に置き換えても同じだと思う）「こんな時、何と言葉をかければいいのか？」小さなころの自分に聞いてみるが、ちゃんと答えてくれない。学校に長くいればいるほど、大人は「子ども一人一人を尊重する。」ことぐらいしかできないような気がしてくる。しかし、それこそが難しい。

（子どもの名前は仮名）